



田んぼコード

同じ人が作っていても、田んぼが違えば別々です。

生きもの元気米は平成27年より、田んぼにそれぞれコードをつけています。「田んぼ一枚ごと」に管理しているため、栽培している農家さんが同じでも、田んぼが違えば別々に管理しているためです。これを見れば「誰が、どこの田んぼで作ったお米か」がわかり、農家さんも「これは自分が作ったお米」とはっきり言い切ることができます。生きもの元気米のしくみを明確にするものです。



生きもの元気米認証マーク



田んぼごとの情報、生きものの記録

生きもの元気米では、栽培期間中に田んぼごとに生きもの調査を行い、その結果を田んぼごとの栽培状況とともに、パッケージやホームページで公開しています。毎年、生きものの記録が積み重ねられ、地域の生きものの様子が記録されます。

農作業を頑張る農家さん、生きもの元気米を食べて応援して下さるみなさま、作業に応援参加して下さるみなさま、生きもの元気米の取り組みをすすめる河北潟湖沼研究所、みんなで活動を続ける成果として、生きものが増えていく様子をお伝えできるよう、これからも調査を続けていきます。

- 田んぼコードは米袋についている認証マーク内に記載しています。(一部の袋では認証マークの外にあります。)
- 文字列左のアルファベットと数字が田んぼコードです。
- 真ん中の数字は年産です。「16」は2016年産です。
- 右側の3ケタの数字は、田んぼごとに、001から1袋ごとに数字が割りふられています。袋固有の番号です。

生きもの元気米・五つの特徴

- 特徴1. 畦で除草剤を使わずに栽培されている。
- 特徴2. ネオニコチノイド系農薬等殺虫剤の空中散布をしていない。(浸透性殺虫剤ネオニコ等不使用)
- 特徴3. 栽培期間中に田んぼの生きもの調査がおこなわれている。
- 特徴4. 生きもの調査の結果は田んぼごとに公開されている。
- 特徴5. お米は田んぼ一枚ごとに管理されている。



NPO法人河北潟湖沼研究所

平成29年3月発行
 〒929-0342 石川県河北郡津幡町字北中条ナ9-9 TEL 076-288-5803 / FAX 076-255-6941
 E-Mail kome@kahokugata.sakura.ne.jp
 生きもの元気米 <http://kahokugata.sakura.ne.jp/ikimonogenkimai/index.html>
 ネットショップ <http://kahokugata.cart.fc2.com/>



このパンフレットは地球環境基金の助成を受けて制作しました。

生きもの元気米2016

作る人、食べる人、田んぼの生きもの、みんな元気に 生きもの元気米通信特別号



圃場の面積



圃場の数



参加農家数



河北潟湖沼研究所が田んぼごとにお米を認証する生きもの元気米の活動は、開始してから約3年がたちました。一つの圃場(田んぼ:Osa159)は、今年からレンコン栽培に切り替わりました。生きもの元気米を始めた年から無農薬でお米を作っていた田んぼですが、レンコン田となった今年も、農薬不使用で栽培されています。生きもの調査で圃場の状態を見ながら、薬はできるだけ使わない、という農地を増やし、そこで栽培された農産物を「生きもの元気農産物」として、作る人、食べる人、農地の生きもの、みんなが元気になるように広めていければと思います。

2016年の夏には、農薬不使用の生きもの元気米田んぼ(Osa7475)へ、ボランティアの方々による除草作業の応援も行われました。農地の生物多様性を保全したい、農家さんを元気にしたい、安心して食べられる農産物を届けたい、そうしてはじめての生きもの元気米の活動ですが、現在継続できているのも、参加して下さる農家さん、応援して下さるボランティアの方々、そして生きもの元気米を選んで食べて下さるみなさまのおかげです。ありがとうございます。これからも生きもの元気米をよろしくお願いたします。

平成28年の生きもの元気米 田んぼの様子



農家さんが生きもの元気米の栽培方法を選ぶ、食べる人が生きもの元気米を選ぶ、みんなの選択のおかげで田んぼのようすがかわっていきます。

田んぼ:YFu49 吉本 豊さん

生きもの元気米3年目、春の田植え後には、田んぼの縁を歩いて餌をとるアマサギの姿がよくみられました。ほかの田んぼではみられない小さな野草のフタバムグラが畦で花を咲かせます。2016年はハネナガイナゴやコバナネイナゴがたくさんみられました。



田んぼ:WSa63 綿村 裕さん

生きもの元気米3年目、カイエビがとでも増えました。淡水産の巻貝、ヒメタニシや二枚貝のドブシジミが多くみられ、夏には湿地に生息するハラビロトンボが見つかりました。アシナガグモやヒメカメノコテントウが害虫を食べているようです。



田んぼ:OSa7475 農事組合法人One

生きもの元気米2年目、昨年に続き農薬不使用で栽培、カイエビ、シュレーゲルアオガエルのおたまじゃくしが目立ちました。土がやわらかく、イトミミズがたくさんみられるのもこの田んぼの特徴です。稲の間にはコナギやオモダカが旺盛に生えました。



田んぼ:OSa2792 農事組合法人One

生きもの元気米で唯一「ゆめみづほ」という石川県独自の品種を栽培しています。これまでも農薬をできるだけ使わずにいたためか野草の種類が多く、ヤブヘビイチゴやキンソウなど背丈の低い野草がたくさんみられます。アオモンイトトンボの姿もみられました。



田んぼ:NHa89 中村 明さん

生きもの元気米3年目、畦の草刈が丁寧に行われていることから、背丈が低い植物の種類が多いことが特徴的です。稲がのびてくるとクモ類が目立ち、トンボもよく飛んでいました。中干し前の田んぼには、カイエビやヒメタニシ、オタマジャクシもたくさんみられました。



田んぼ:IKi789 楽園果実石橋農園

今年から生きもの元気米を始めた田んぼです。生きもの元気米の中では一番山手にあり、農薬不使用で栽培されました。水の中にはカイエビがたくさんみられ、小さなゲンゴロウのなかまやコミズムシのなかまなどの水生昆虫が活発に動いていました。



田んぼ:OSa278 農事組合法人One

2016年の生きもの元気米田んぼの中で一番大きく、野草の種類も一番多く確認されています。水草のシャジクモやウキクサ、スズメノテッポウやタガラシ、タカサブロウなどの野草が目立ちます。春はタシギが4~5羽、田んぼで餌をついばんでいました。草も動物も多い田んぼです。



田んぼ:OSa159 農事組合法人One

昨年まで生きもの元気米を栽培、今年から生きもの元気「レンコン」になりました。見られる生物も変わり、アカムシユスリカ類が増え、レンコンの葉の成長とともにホタルイが群生、シャジクモも群落がみられました。上空をツバメがよく飛翔していました。



田んぼも人間も 薬で弱らせてはいけない！ 生きもの元気米 を食べて元気な田んぼを増やしていこう！

畦
あぜ 除草剤で草が無い土がぼろぼろ
害虫が発生したら大変だ、全体に薬をまいて殺してしまえばいいだろう。
乾いてすめない。

水路
田んぼの境界の畦は、草がすぐのびるから、除草剤でぜんぶ枯らそう。
水草がなくて産卵できない。隠れ場所がない。

餌がないよ~

昨日の農薬で虫が減った。
この田んぼに農薬は必要？

農薬をまくことが習慣的に・・・

● 殺虫剤の空中散布
→ 害虫を食べる益虫まで死にます。
人だったら、抗がん剤でガン細胞とともに、白血球が死んでしまうようなもの。

● 除草剤で草を枯らす
→ 草が枯れ、土はぼろぼろになり、クモやバッタ、カエルの姿もなくなります。
人だったら、骨髄が破壊され、白血球と赤血球が正常につくられなくなるようなもの。

どうしたら元気に？

田んぼも健康診断を
田んぼには色々な働きをする生きものが数多く生息し、それらの状態を知ることが大事です。

薬は必要なときに必要なぶんだけ、できるだけ使わない。それは田んぼでも同じ。詳しい病状もわからずに、薬を使い続けていれば、免疫力も低下し、健康でいられません。

生きもの調査で、生きものの変化に気づく！

殺虫剤空中散布がなくなって、トンボやカゲロウが増える！

農薬は必要最小限 生きものいっぱい！ お米もおいしい！

畦に除草剤がまかれなくなって色んな草が生える！

虫がいっぱいで、子育てに助かるわ。

餌が田んぼにたくさんいる！

田んぼで育って羽化できた！

草があって、すみやすい！

● 農薬の空中散布をしない
+ 浸透性殺虫剤(ネオニコ等)を使用しない

● 畦の除草剤を使わない
上記2つの条件で、農家さんと契約し、

● 生きもの調査を実施する
生きもの調査を実施して、生きもの元気米認証をしています。

農家

- 農薬の使用を制限
- 田んぼ1枚ごとに収穫・管理
- 個性をアピール

NPO

- 農家と契約、生きもの元気米認証
- 田んぼごとに生物調査、情報発信
- 田んぼごとに袋詰め、管理

消費者

- お米の育った環境がみえる
- 生産地や農家がわかる、安全安心
- 食べることで環境保全、活動支援